

第21回 公開シンポジウム

『茶の本』再考



岡倉天心（一九〇四年）



2006/10/14 (土)
14:00~16:30 (開場 13:30)

●会場

東京女子大学24202教室
(杉並区善福寺2-6-1)

パネリスト

船曳 建夫 (東京大学)

千 宗屋 (武者小路千家)

黒崎 政男 (東京女子大学)

司会

大久保喬樹 (東京女子大学)

- アクセス JR西荻窪駅または吉祥寺駅より関東バスで「女子大前」下車
- 案内 行事案内テープ TEL 03 (5382) 6749 <http://www.twcu.ac.jp/>

東京女子大学比較文化研究所

申込不要
聴講無料
定員350名



第21回 公開シンポジウム

『茶の本』再考

日本文化論の古典として知られる岡倉天心の『茶の本』が20世紀初めのアメリカで刊行されてから今年で100年を迎えます。これを機会に、この書がはらむ思想的可能性をあらためて多角的な観点から検討してみたいと思います。

『茶の本』は、茶道を軸として日本およびアジアの文化のエッセンスを縦横自在に語ったものですが、そこには、当時まで圧倒的に世界を支配していた近代西欧文化原理に対抗し、それを超えるような新しい文化のありかたを提示しようとする意思、戦略がうかがわれます。

この天心の意図は、それから100年を経て、近代西欧文化原理のゆきづまりを打開する

ポストモダン文化原理を模索する現代の私たちにさまざまな示唆を投げかけてくるといえます。

こうした問題意識、展望のもとに、21世紀現在の時点での『茶の本』の意義を再考したいと思います。

●パネリスト

船曳 建夫 (ふなびき たけお)

東京大学



1948年生まれ。東京大学卒業。ケンブリッジ大学大学院博士課程修了(Ph.D.)。東京大学大学院総合文化研究科教授。専門は文化人類学。主著に、『知の技法』(共著、東京大学出版会)、『日本人論』再考』(日本放送出版協会)など。

●パネリスト

千 宗屋 (せん そうおく)

武者小路千家



1975年生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。文学修士。2003年武者小路千家官休庵家元後嗣・宗屋を襲名。武者小路千家若宗匠。明治学院大学非常勤講師(日本美術史)。主著に『やさしい茶席の禅語』(共著、世界文化社)など。

●パネリスト

黒崎 政男 (くろさき まさお)

東京女子大学



1954年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京女子大学文理学部哲学科教授。専門はカント哲学、科学哲学、電子メディア論。主著に、『身体にきく哲学』(NTT出版)、『デジタルを科学する』(PHP新書)など。

●司会

大久保喬樹 (おおくぼ たかき)

東京女子大学



1946年生まれ。東京大学大学院修士課程を経て、パリ第3大学比較文学科留学。東京女子大学文理学部日本文学科教授。専攻は比較文学。主著に、『新訳茶の本』(角川文庫)、『岡倉天心』、『森羅変容』(いずれも小沢書店)など。

アクセス

■JR西荻窪駅北口より徒歩12分。

■バス利用のときは

西荻窪駅北口(1番のりば)から吉祥寺駅行、女子大前下車。

吉祥寺駅北口(3番のりば)から西荻窪駅行、女子大前下車。

上石神井駅南口から西荻窪駅行、地蔵坂上下車5分。

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

